

学位論文作成要領

大阪公立大学大学院
リハビリテーション学研究科

修士論文、および、複数の研究を取りまとめた博士論文を執筆する場合の要領は以下のとおりとする。形式は、A4 版横書き、余白は上 35mm、右 30mm、左 30mm、下 30mm とする。

フッタは、下から 18mm とする。

1) 表紙

「研究科名」	MS ゴシック	16 ポイント
「修士論文」	MS ゴシック	16 ポイント
「博士論文」	MS ゴシック	16 ポイント
「論文題目」	MS ゴシック	18 ポイント (英文の場合は Arial 18 ポイント)
「年月 (西暦)」	MS ゴシック	16 ポイント
「氏 名」	MS ゴシック	18 ポイント

※ 文字の配置は **別紙 1** を参照

2) 本文

行数は 30 行 (字数は適切なもの)、文字の大きさは 12 ポイント、字種は見出しを MS ゴシック (英文の場合は Arial)、本文は MS 明朝 (英文の場合は Times New Roman もしくは Century) とする。

3) 論文の体裁

目次、要約 (最下段にキーワードを書き入れる)、緒言、研究方法、結果、考察、文献、謝辞、資料の順に記載することとする。

4) 頁 (ページ) の記載

頁は、要約から文献欄の最終頁まで、-1- -2- -n- のようにつける。資料には、本文と区別し、-i- -ii- -n- の頁番号をつける。記入場所はフッタの中央とする。

5) 作成上の注意点

要約は 400 字～800 字程度とする。また、3～5 語のキーワードを要約の下段に記載する。

見出しは、I. 1. 1) (1) ① の順序とする。

6) 図表と資料の添付

図表および資料は、白紙 (本文と同質) を用いて作成し、それぞれに一連番号を付し、また、それらの内容を示す標題 (図は下、表は上) をつける。表の大きさは、最大 A4 サイズまでとする。図表は、文中の適切な箇所に挿入する。

資料は、最後尾にまとめ、一連の番号を付して添付する。

7) 文献

- 引用文献は、本文中では引用する箇所の右肩にアラビア数字で上付きの通し番号 (1, 2, 3, 1, 6-9 など) をつけ、文献欄に引用順に一括掲載する。番号は文献ごとに付け、1 つの番号に複数の文献を引用しない。本文中に著者名を引用する場合は、混乱の起こらない限り姓のみとする。
- 私信、未発表結果、投稿中の論文、新聞記事、パンフレット、単なる報告書などは文献欄に入れず、本文中に括弧に入れて引用する。

- ・ 文献欄における引用文献の雑誌名等は略称で表記する。略称は、ISO 4 または Medline の表記に従うが、略記形が不明の場合は、完全誌名を記載する。
- ・ 文献欄における著者名は著者全員を記載する。ただし多数の著者で書かれた文献を引用する場合は、原則、第 3 著者までを記載し、第 4 著者以後の著者を、和文の場合は“ほか”、英文の場合は“et al.”と略す。
- ・ 文献タイトルや雑誌名等の中の英数字およびカッコは、実際にタイトル内で使用されている表記を使用する。

(学術雑誌の場合)

- 1 和中秀行, 岩田晃, 佐野佑樹, 大嶺俊充, 山本沙紀, 柚友ひかり, 安田晴彦, 西井孝 (2020) 人工膝関節全置換術患者の両下肢間協調性について. 理学療法学, 47:402-410.
- 2 松本茂樹, 辻薫, 岸良至 (1994) 作業療法での床上姿勢を考える-小児領域の立場から. OT ジャーナル No.2:169-174.
[注：号の使用は通しページの無い雑誌に限る]
- 3 Cattanco L, Rizzolatti G (2010) The mirror neuron system. Arch Neurol, 66:557-560.
- 4 Gowland C, de Bruin H Jr, Basmajian VJ (1992) Agonist and antagonist activity during voluntary upper-limb movement in patients with stroke. Phys Ther, 73:642-633.

(書籍の場合)

- 5 岩内亮一 (1993) “社会問題の心理学”, 学文社, 東京, pp.57-60.
- 6 Raven JC, Court JH, Raven J (1990) “Manual for Raven’s Coloured Progressive Matrices,” Oxford Psychologists Press, Oxford, pp.5-25.

(編者がありまた多数の著者で書かれた書籍から特定の文献を引用する場合)

- 7 金子丑之助, 山田始 (1985) 視神経の観察, “日本人体解剖学”(山村雄一, 古賀真一編), 第 3 巻, 南山堂, 東京, pp.100-127.
- 8 Horn S (1997) Towards a therapeutic alliance model of rehabilitation, “Rehabilitation Studies Handbook” (Wilson BA, McLellan DL, editors), Cambridge University Press, Cambridge, pp.75-93.

(訳本の場合)

- 9 Kielhofner G (1992) “Conceptual Foundations of Occupational Therapy” (Davis FA, editor), 1st ed., Academic Press, New York. [山田孝, 小西紀一訳 (1993) “作業療法の理論”, 三輪書店, 大阪, pp.13-94.]

(報告書・学会発表の場合)

- 10 齋藤洋一 (2009) 霊長類視床痛モデルによる難治性疼痛の脳内機序解明と新たな治療法の開発, 平成 19 年-20 年度文部省科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究成果報告書.
- 11 細見晃一 (2008) 難治性神経因性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激法, 第 38 回日本臨床神経生理学会学術大会抄録集(神戸), p.56.

(掲載決定の通知を受けた投稿論文を引用する場合)

- 12 佐藤眞一, 島内晶 (2011) ADL 障害の評価とリハビリテーション. 老年精神医学雑誌, 印刷中.
- 13 Casanova MF, Starkstein SE, Jellinger KA (2011) Clinicopathological correlates of behavioral and psychological symptoms of dementia. Acta Neuropathol, in press.

(特許の場合)

- 14 山岸喬, 早川一蔵 (1966) 特許公告, 昭和 41-730.

15 Bishop CE (1973) US Patent, 3, 770, 782.

(ウェブサイト資料の場合)

16 日本脳卒中学会 (2009) “脳卒中治療ガイドライン 2009”, 日本脳卒中学会 <<http://www.jsts.gr.jp/jss08.html>>. [accessed 17 October 2022]

17 World Health Organization (2011) “Disabilities and rehabilitation,” World Health Organization < <http://www.who.int/disabilities/en/> >. [accessed 17 October 2011]

18 Housman SJ, Scott KM, Reinkensmeyer DJ (2009) A randomized controlled trial of gravity-supported, computer-enhanced arm exercise for individuals with severe hemiparesis. *Neurorehabil Neural Repair*, 23:505-514, doi: 10.1177/1545968308331148, < <http://nnr.sagepub.com/content/23/5/505> >. [accessed 17 October 2011]

大阪公立大学大学院
リハビリテーション学研究科
修 士 論 文

〇〇〇〇病患者の歩行障害と生活機能に
関する疫学研究

2027 年 3 月
公大院 花子